

令和2・3年度 神奈川県立学校 第三者評価実施報告書

評価実施校	横浜平沼高等学校	課題解決に向けた取組状況への評価・助言 ＜評価委員＞	課題解決に向けた取組の成果と課題 ＜学校記載＞
カテゴリー名	学力向上進学重点校 エントリー校		
課題1	学校の伝統や学力向上進学重点校エントリー校としての取組みを生かした授業改善 ・生徒の学習ニーズや個に応じた学習指導、そのための授業改善の内容及び取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動と最難関大学をめざす授業の両立は難しいと思われるが、生徒への「なぜ」という問いかけを大切にし、探究活動を実践しており、教員間、生徒間にも浸透しつつある。その点では、校長の方針が浸透しており、評価できる。 ・授業見学は全教員という目標は達成できなかった点は残念であるが、この取組に対する教員の理解は浸透しつつあり、かつ授業に対する意見交換の機会が増えているという点は評価できる。教員が相互に授業を見合い、専門家としての教員同士が学び合う学校づくりを期待したい。 ・授業改善の取組として、生徒がICT機器を利用して主体的・効率的に学ぶ環境整備を進めているが、現状では、ICT機器活用のための教員研修の実施が中心となっている。今後も継続的な研修を行う中で、技術的な能力に関する教員間の差を埋めると共に、的確に授業の中で活用できる授業実践面でも能力開発のための研修の充実を期待したい。 ・ICT機器の活用については、これまでの取組の成果として、意識改革の段階から授業で使うという段階に移行しつつある状況である。しかし、使うという段階といっても、授業の中での活用はまだ一部の活動（教材の提示、生徒の回答など）であり、また一部の教員にとどまっている。今後は、授業の中で的確に、かつ教員及び生徒間で双方向的な活動になるようなICT機器を活用した授業実践に繋がる取組を期待したい。 	＜成果＞ ・令和2年度から「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、生徒の「なぜ」という気持ちを大切に「主体的授業」を共通テーマに校内授業研究に取り組み、令和3年度は横浜国立大学の教授から次年度へ向けての具体的なアドバイスをいただくことができた。 ・ICT利活用については、校内研修や学び合いを通して、教員の技術・能力が向上したことにより、生徒の主体的な学習活動が行われ、学校運営協議会委員からも高い評価を得ることができた。また、生徒の探究活動におけるレポート作成や発表活動の充実にもつなげることができた。 ・授業見学については、初任者や中堅教員の研究授業を多くの教員が見学し、研究協議に参加する様子が見られる等、教員が相互に授業を見合うことが日常的に行われるようになった。 ・「生徒による授業評価」では、各指標の数値の向上がみられた。
R3指標	授業見学週間で全教員が授業見学を行い、満足度が70%を超えたか。横国大との連携ができたか。「生徒による授業評価アンケート」項目5の評価4の割合が40%以上。	<ul style="list-style-type: none"> ・このような学校の状況を鑑みると、授業改善における探究活動及びその中でのICT機器の活用を推進するためには、横浜国立大学との連携は重要である。コロナ禍の影響もあり、連携活動は今後、具体的に実施することなので、その活動の着実な取組に期待したい。 ・教員の授業見学の満足度という指標は、授業を見合うということへの理解を測る上で必要な指標ではあるが、授業改善に結びつけるためには、授業改善の成果そのものを見ることも重要である。そのためには、現在も実施されている「生徒による授業評価」の結果の活用は重要な取組である。全体的には数値が上昇していることは評価できるが、目標を達成できていない教科や項目についての要因分析を教員全体で行いながら、学校全体で授業改善の取組を検証し、継続的な改善につなげることを期待したい。 	＜課題＞ ・生徒が主体的にICTを活用できるよう校内研修を継続し、教員の技術や能力の一層の向上を図るため、ワーキンググループを組織し、令和4年度入学生からの1人1台端末の導入に対応する。 ・生徒による授業評価の結果について、前期の教科代表者会議等で目標を達成できていない教科や項目についての要因分析を行い、後期の授業改善につなげる必要がある。
課題2	生徒の進路希望を実現させるための、組織的な進路支援体制の整備 ・進路ガイダンスやキャリア教育の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・最難関大学をめざすためのHi-ゼミは生徒からの評価も高く、今年度は、1年生に対する趣旨説明も開講前に実施できており、生徒の十分な理解のもと受講できる体制も構築できている点は評価できる。 ・「学力向上進学重点校エントリー校」としての課題解決に向けた取組は着実に進んでおり、評価できる。エントリー校としての方向性がマッチしている生徒には、進路第一希望実現に向けて満足度が高いと推測できる。ただし、エントリー校としての取組を強化する分、グローバル教育等、高校が伝統的に培ってきた教育に力が注がれているとはいえない。 ・今後は、学校としての方向性を明確にし、その方向性を教員間での共通意識として醸成すると共に、在校生だけでなく保護者や中学生、地域住民等への説明責任を果たす上で、学校経営方針に基づく改革に邁進することを期待したい。 ・進路指導において、「一つ上を目指す」という方針は、教員間、生徒間にも浸透しており、評価できる。ただし、生徒の進路希望は多様であり、一部ではあっても学校推薦型選抜で進学を考えている生徒には理解されていない面もある。各生徒の希望や思いに寄り添いながら、丁寧に説明することが求められる。 ・併せて、生徒自身の進学選択や将来設計についての意識改革を行うことも重要である。教員に言われて「一つ上を目指す」のではなく、自発的に「一つ上を目指す」意識を持って進路選択ができるような生徒の意識改革を促す取組が必要である。そのようなキャリア教育の実施を期待したい。 	＜成果＞ ・1、2年のガイダンスや3年の説明会等で、受験に向けての準備や心構え、受験後の生活に至るまで細かな指導を続け、生徒の第一志望への進学をサポートできた。 ・総合的な探究の時間において、キャリアパスポートを作成させたことで、これまでを振り返りながら自分と向き合い、将来のキャリアについての意識の向上を図った。 ・模擬試験の結果分析データ等をもとに校内研修を行い、生徒の自主性・主体性を尊重しつつ、生徒の進路決定につながる情報を効果的に提供することができた。 ・Hi-ゼミについては、15講座開講し、500人を超える生徒が受講しており、進学に対する意識の向上に寄与した。
R3指標	進路ガイダンスや先輩セミナー、模擬授業などの後の生徒アンケートで進路につながる理解を深め満足度が70%以上。「魅力特色アンケート」設問A-4 B-3の結果が前年より上昇。		＜課題＞ ・伝統校としての特長を全職員で再認識し、生徒と積極的に関わりながら生徒の個性や自主性・主体性の伸長を企図する取り組みを行う。 ・Hi-ゼミを継続する等、高みを目指させる進路指導の在り方を模索する。 ・同窓会との連携により、様々な分野で活躍する大人の話聞く機会を提供し、生徒の将来に対する意識を刺激する。 ・グローバル教育においては、コロナ禍でできなかった取組を再構築し、幅広い知識と教養を身につけさせ思考力や判断力を涵養する。
		総括評価(これまでの訪問①～④を踏まえた課題解決の取組状況に係る評価) ＜評価委員＞	総括評価を踏まえた次年度の学校運営に係る改善点および改善方法 ＜学校記載＞
		<ul style="list-style-type: none"> ・訪問時には、評価・助言に基づく課題解決の取組についての適切な説明が得られており、学校が評価委員の評価や助言を真摯に受け止め、着実に課題解決に取り組んでいることがわかる。この点は高く評価している。 ・ただし、課題1・2ともに、すぐに成果が得られるものではなく、地道に継続することが必要である。また、コロナ禍の影響により、遅れている部分があることはやむを得ないものと考えられる。 ・引き続き、最終的な成果が得られるよう、校長及び学校管理職がリーダーシップを発揮し、学校全体での組織的な取組を継続して実施してほしい。 ・その際、多様な生徒の声を受け入れる場を意識して作ることで、適切な指導を行う体制も構築しておく必要がある。 ・「学力向上進学重点校エントリー校」としての実績を上げることが本校の第一優先であることへの教員及び生徒内での共通理解が広まりつつあるが、意識のギャップも見受けられる。学校は今後スクールポリシーを策定していくとのことなので、その過程に、教職員、生徒、学校運営協議会、同窓会等の関係者が熟議等を通して関わることが重要である。そのことを通して、これらの学校の内外の関係者が共通理解をし、かつ当事者意識を持って今後の学校づくりに取り組んでいくことを期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の「生活に関するアンケート」、「生徒による授業評価」を活用して生徒の意見や要望を教職員全体で共有し、各グループ等で学校行事や進路指導等に反映させる。年度末には、企画会議で総括し、成果と課題を学校運営協議会にて報告し、スクールポリシーを踏まえた次年度への改善点について協議する。 ・横浜国大との連携を維持し、助言をいただきながら、生徒の意識改革につながるような授業改善を図る。 ・生徒の進路に関しては「妥協なき進路実現」を目指し、生徒が満足する教育活動を提供できるように学校全体で取り組んでいく。